

## 製品事業本部の取り組み

合材工場では、大成グループが掲げる【TAISEIVISION2030の3つのX】の基、特にデジタルトランスフォーメーション「DX」、ならびにサステナビリティトランスフォーメーション「SX」に対して積極的に取り組んでいます。

### DX への取り組み

## プラットフォーム型オーダーシステム「アスプラネット」の開発

製品事業本部ではアスファルト合材の製造・販売および建設廃材の中間処理業を中心に事業を行っています。その取引における受発注は発注側が工事現場という制約もあり、旧態依然とした電話やFAXによるものが主となっており、受発注者双方の利便性向上が図られていませんでした。

今回、製品オーダーシステムのクラウド化、そして顧客のニーズに合わせサービス機能を充実させた、プラットフォーム型オーダーシステム「アスプラネット」をKDDI(株)と共同開発しました。

これにより、PCやモバイル機器等から依頼することが可能となり、発注者、および当社の営業担当者・工場出荷担当者の情報共有がリアルタイムで行えるため、効率的かつ的確な現場管理をサポートします。また、受発注業務の省力化を図り、社員の働き方改革にも寄与します。

道路舗装業界初のシステムである「アスプラネット」を全国展開し、合材工場のDXを加速させていきます。



アスプラネットの詳細はこちらのQRコードからご覧になれます。



### SX への取り組み

## アスファルトプラントにおける脱炭素化

2021年11月、山形県山形市の地元大手建設会社との共同企業体として、市内唯一となるアスファルト合材工場を新たに開設しました。

当工場は環境面に配慮し、業界の脱炭素化に先駆けて燃料をガス化、グリーン電力を採用、高効率機器の導入により、従来プラントと比較して、2030年目標である二酸化炭素排出量を50%削減、また硫黄酸化物の排出ゼロを目指します。

さらには山形市も参画し運営されているエネルギー処理施設から、副産物である溶融スラグの供給を受け、山形県リサイクル認定製品として登録させていただき、



高効率ガスバーナー

アスファルト舗装合材の材料として使用していく計画です。

これからも地域に根差し環境に配慮した工場運営を図っていきます。



アスファルトプラント(山形工場)